

後期日程

本2021

令和3年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部
学校教育課程
小中連携教育コース

—— 解答上の注意事項 ——

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問】昨年春には、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として全国的に学校が休校となり、オンライン教育の本格的導入が検討されるようになりました。オンライン教育の在り方について、あなたはどのように考えますか。下記のインタビュー記事「授業とは、先生の役割とは何か 問い直される学校の存在意義」を参考にして、あなたの考えを800字以内で述べてください。

(略) 教育ICTコンサルタントとして、学校教育コンサルティングを行なうフューチャーインスティテュート代表取締役の為田裕行氏は「オンライン授業はゴールではなく、1つの手段です。スムーズにオンラインに移行できるかどうかは、その学校がどんなスタイルの授業をやっていたかによるかと思います」と話す。

知識詰め込み型といわれる、先生が一方向的に話して子どもたちに知識を教えるスタイルの授業が主体の場合、教育のICT化が進んでいない学校が多い。そうした学校では、機材から準備することになるので、オンラインへスムーズに移行することも難しい。

一方で、「公立小学校でも、ICTの便利さに気づいて、配備を進めて、授業や学校の在り方を見直して、教育のデザイン自体を変えてきた学校は、家庭学習をオンライン化する際もスムーズに進んでいる印象です」と為田氏は言う。

また、知識詰め込み型の授業をそのままオンライン化するとしても、それまで教室という現場で先生が読み取っていた子どもの表情や反応を読み取れないなど、移行の際に零れ落ちるものがある。そのため、とにかくオンライン化という考えではスムーズな移行は難しいと為田氏は言う。Zoomなど無料動画ツールを活用して顔が見える工夫も時には必要だろう。

「機材がなくてはスムーズなオンライン化は難しいのですが、機材があっても、授業の在り方自体が問われてきますので、今から、ただオンラインをスタートすればいい話ではありません。学校がどういう場なのか、授業とはそもそも何なのか、今、問われているのだと思います」

(略) 現在のオンライン教育は、まだまだ地域、学校、クラスに縛られていると為田氏は言う。極端な話、プログラミングと英語の授業は学校とは別のオンラインスクールで学び、算数はオフラインで学校で学ぶといった選択ができるのがオンライン教育の良さ。また、個別最適化の学びと言う場合、多くは先に進んでいく方をイメージするが、例えば、小学5年生の教室にいても、分からない部分があるなら、小学3年生の授業を聞ける。それが自由にできるのがICTの力で、オンライン教育の良さと言える。

一方で、これまで学校という〈場〉にいたからこそ勉強できていた子は多くいるだろう。オンライン教育は“自分でやらなければならない”部分が大きい分、自己調整力が必要で、モチベーションを自分でコントロールして勉強を進めていけない子は、どんどん学習が遅れてしまう恐れもある。オンライン、ICT、デジタルを使いこなすことで縮まる格差もあれば、オンライン、ICT、デジタルで拡大する格差もあるということだ。

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、オンライン教育が否応なく進んでいく。その影響をより大きく受けるのは、学校、先生側より授業を受ける子どもと保護者だろうと為田氏は言う。

特に、公立の小学校や中学校では、もともと学力差のあるところに加え、オンライン学習で自分で勉強できる子、できない子、同じ課題を5分で終えていた子、30分かかっていた子、終えられなかった子が一緒になって教室に戻っていく。そうなった時に、“今までの一斉授業って何だったのだろう”“これまでの授業と同じでいいのか”という問いは必ず生まれてくるはずだ。

「先生は、今まで以上に拡大している学力差と学びへの姿勢の差に直面することになるでしょう。さらに、遠隔授業で受けたものも単位に認めるとなってくると、“学校って何なの”という話になる。“プリントを配って採点し、成績がつくだけでいいのか”と、どんどん学校側にボールが投げられていくでしょう」

学校には学校の、リアル教育の価値がある。オンラインである程度できると分かった後に、ICTすべきこと、リアル教育すべきことは何か。“学校はこうあるべき”という次の思考に進められるかどうかで、学校間の差が出てくることになるだろう。

オンライン化が進めば、より多くの人目に触れ、競争が起きたり、優秀な動画に教師が淘汰されるのではないかという危惧もある。

「デジタル化することで、“先生の仕事なくなる”という声を聞きますが、そんなことはありません。先生の“やるべきこと”が変わるのです」

(略)

【出典】「ポストコロナと学校アップデート 授業とは、先生の役割とは何か 問い直される学校の存在意義」(『先端教育』先端教育機構出版部、7月号、2020年)。(出題に際して、見出しを割愛した上で、一部を抜粋した。)